

2016年7月28日

**長野オリンパス株式会社が  
日本能率協会の優良工場表彰「GOOD FACTORY 賞」を受賞  
～高いレベルの“工場運営”を行う会社として選出～**

オリンパス株式会社(社長:笹 宏行)のグループ会社であり、顕微鏡の製造や医療用内視鏡の修理を手がける長野オリンパス株式会社(社長:田中 健寛)は、一般社団法人の日本能率協会が実施する優良工場表彰「GOOD FACTORY 賞」を受賞しました。

本賞は、工場の生産性や品質の向上をはじめ、さまざまな体質革新活動に取り組んでいる事例に着目し、優れた成果を挙げた工場を日本製造の範として日本能率協会が表彰するものです。2011年に設立され、年に一度、活動のプロセスや成功要因、現場の知恵、働く方々の意識改革、社会的貢献など、幅広い見地より審査される栄誉ある表彰制度です。

「GOOD FACTORY賞」は4つの賞からなり、今回、長野オリンパス(株)は「ファクトリーマネジメント賞」を受賞しました。本賞は、総合的に“工場運営”のレベルが高く、全体的にバランスの取れた“工場運営”を行う工場に贈られます。

オリンパス(株)の長野県との関わりは、1943年に諏訪工場を設立以来、3四半世紀にわたります。現在は、長野事業場として辰野と伊那の2拠点が主体です。長野オリンパス(株)は、オリンパスオプトテクノロジー(株)、(株)岡谷オリンパスを統合して2011年10月に長野事業場内にグループ会社として発足しました。さらに半年後(2012年4月)にはオリンパス(株)伊那工場の顕微鏡製造機能を統合しました。現在は、主にシステム顕微鏡や工業用内視鏡の製造および医療用内視鏡の修理を行っています。

設立した当初は、3工場が異なる事業領域や背景を抱えていたことに加え、震災の影響もあり、全体の一体感が乏しい状況でした。このような状況下で、長野オリンパス(株)の経営陣は「必ず成長させて次世代へ引き渡す」という覚悟のもと、旧3工場のスタイルを断ち切り、団結と覚悟を工場のメンバーに芽生えさせるため、独自のマネジメントサイクルを展開しました。①「全員力向上」②「挑戦的目標」③「個の能力向上」のサイクルを回し、成長軌道に繋げたことが特に評価され、本賞の受賞に至りました。

●特に評価いただいた点

1. 独自性のあるマネジメントサイクルの仕組み構築とその実践
2. 活動を軌道に乗せるための「全員力向上」と高い成果を得るための「挑戦的目標」の設定
3. 個の能力を高める仕組みの構築



長野オリンパス(株)が所在するオリンパス(株)の長野事業場(辰野)